

研究開発最前線特集に寄せて



富士通株式会社 代表取締役副社長
CTO/CIO
株式会社富士通研究所 代表取締役社長

古田英範

デジタル化が加速する今日では、先端技術や異業種のノウハウを組み合わせる共創「Co-creation」によって、社会課題の解決や新たな付加価値の創出、様々なイノベーションなどが起こっています。そのため、社会や企業における情報通信技術（ICT）の役割や期待も、業務の効率化だけでなく多様な範囲に広がってきています。

富士通は、1976年に「信頼と創造の富士通」をスローガンに掲げ、お客様への高品質なICTサービス・製品の提供による信頼「Reliability」と企業としての創造「Creativity」を追求してきました。今日のデジタル時代においては、価値の源泉が製品・サービスだけでなく、データや知識などの形のない資産に移っています。そこで、「信頼」そのものの定義をデジタル時代に相応しいものに再定義していかなければなりません。

デジタル時代には、企業、個人、ビジネス、システム、データなどが無限につながるため、品質、真正性、適格性など信頼を確保すべき要素が爆発的に増加、かつ分散してきています。例えば、企業間の健全な取引や企業のコンプライアンス（法令遵守）の実現のためには、ICTサービス・製品が設計どおりに動くこと、壊れないことなどの信頼性（Reliability）に加え、そこで扱われる情報が正しいこと、情報が正しく扱われていることなどの信頼も確保しなければなりません。近年注目されているAIの分野を見ても、AIアルゴリズムが改ざんされておらず、学習データの真正性が証明され、さらにAIの推論過程を検証できることで、AIの判断結果を信頼することができます。このような課題が解決されて初めて、人々はAIを信頼して使うことができるようになるでしょう。これら様々な局面の「信頼」を包含する、デジタル時代の新たな信頼「Digital Trust」の実現が求められています。

富士通は「Digital Trust」を実現し、劇的に変化する社会からの要請に応え、「サービスオリエンテッドカンパニー」として人々、企業、社会の発展を支えてまいります。本特集号では、「Digital Trust」を実現するために取り組んでいる研究開発の一端をご紹介します。